

【5】河川名を変更した話

河川は長物でいろんな地域を流れて来るので地域によって川の名が異なっていることは珍しくありません。

有名な例は淀川で、水源の琵琶湖から流れ出す滋賀県では「瀬田川」、京都府に入って「宇治川」、大阪府に入る直前、「桂川」や「木津川」を合流して「淀川」になり、現在でもこの名前は受け継がれています。

明治29年(1896)に河川法が制定され、明治43年(1910)の大水害を契機に内務省の手で全国的に治水事業が始められ、河川名も行政的に統一した名前が付けられるようになりました。

全川にわたる一般的な、例えば天竜川とか利根川とかの名があるときは問題ありませんが、地域により流布している呼び名がまちまちだと問題が生じます。

次に紹介する2例は、当初の河川名が時代の推移とともに実態とマッチしなくなり、世論の声もあって改名されたものです。

高知県の「四万十川」は、昭和初期に治水事業が始まったとき、「渡川」(わたりがわ)とされました。河口近くの小京都と称された中村町に古くから渡しがあったことから河口域ではこう呼ばれていたようです。

ところが、近年に至りNHKが上流部での呼び名である「四万十川」の名で最後に残された清流として(これには問題もあるのですが)紹介して以来、観光地として発展し、その名は全国的に有名になりました。

過去のいきさつはともかく、「四万十川」へ変えよという声が大きくなり、平成6年(1994)に幹川としての「渡川」の名は「四万十川」に正式に変更されました。但し幹川や支派川をまとめて流域全体と言う水系の名としては「渡川」の名は残されましたので、変則的ですが「渡川水系四万十川」ということになります。

よく似た話が和歌山県、奈良県、三重県にまたがる「熊野川」です。

大正時代末期に熊野川の治水事業が被害の大きかった河口の和歌山県の港町の新宮町から着手されたとき、熊野川という呼び名もあったのですが、当時の内務省は和歌山県の意見も確認して「新宮川」としたのです。

ところが以来100年近くの間、陸の孤島だったこの地域も交通が改善され熊野詣や瀬八丁など観光地として有名になり熊野川の全国知名度が高まり、地元の強い要望を受けて平成10年(1998)に「新宮川」に替えて「熊野川」が正式名称になりました。このときも水系名は新宮川のままです。

地図帳や教科書を介して学校教育への影響もあるので、川の名が変わることは基本的には好ましいと思いませんが、実態とかけ離れることも望ましくありません。

国管理の109の一級水系を見わたしても幸いなことに上の2つに続くものは当分無さそうです。